大阪市立大学
OSAKA CITY UNIVERSITY

プレスリリース

大阪科学・大学記者クラブ　御中
（同時資料提供先：文部科学記者会、科学記者会）

2021 年 3 月 29 日
大 阪 市 立 大 学

小児集中治療室での医療の質改善に関するシステマティックレビュー
～研究報告の質の問題を初めて明らかに～

＜本研究のポイント＞

◇小児集中治療室での医療の質改善に関する論文数は経年的に増加しているものの、研究報告の質は必ずしも高くない

◇今回行った系統的評価で、質が高いと判断された研究は 17%、質改善の研究を報告するためのガイドラインを引用していた論文はわずか 5%

＜概　要＞

大阪市立大学大学院医学研究科 医療の質・安全管理学の山口 悦子准教授、稲田 雄大学院生らの研究グループは、小児集中治療室における医療の質向上について記述した文献を調査し、質改善の論文数は経年的に増加しているものの研究報告の質は必ずしも高くないことを明らかにしました。

日本のものづくりにおける継続的質改善（KAIZEN）は有名ですが、残念ながら医療分野での質改善の取り組みの報告は、欧米から遅れをとっているのが現状です。小児集中治療室では、重症な患者に対して複雑な医療をタイムリーに行う必要があるため、質改善の必要性とその効果は大きいと考えられます。近年は研究報告も増えていますが、今までそれを系統的に評価した質の高い研究がありませんでした。

本研究グループは、小児集中治療室で行われている医療の質改善研究の全容やそれらの研究報告の質を評価するため、0～16（満点）のスケールで採点し既存の文献の系統的評価を行いました。その結果、分析対象として採用した 158 件の質スコアの中央値は 11.0 で、質が高い（スコアが 14～16）と判断された研究は 17%、質改善の研究を報告するためのガイドライン「Standards for Quality Improvement Reporting Excellence」を引用していた論文はわずか 5%でした。

この結果は医療分野での質改善研究報告の質に改善の余地があることを示唆しています。

本研究成果は 2021 年 2 月 26 日（金）に国際学術雑誌「Pediatric Critical Care Medicine」（IF = 2.854）にオンライン掲載されました。

研究者からのコメント

この研究は、小児集中治療室で行われている医療の質改善研究の全容やそれらの研究報告の質の問題を初めて明らかにしたものです。日本発の研究はほとんどないことから、日本の小児集中治療室では医療の質改善活動やそれに関する研究がほとんど普及していないことが示唆され、今後取り組むべき重要な課題であると考えまし

稲田 雄 大学院生

■掲載誌情報

雑誌名： Pediatric Critical Care Medicine

論文名： Quality Assessment of the Literature on Quality Improvement in PICUs: A Systematic Review

著者： Inata, Yu MD[1,2]; Nakagami-Yamaguchi, Etsuko MD, PhD[1]; Ogawa, Yuko MD[2]; Hatachi, Takeshi MD, PhD[2]; Takeuchi, Muneyuki MD, PhD[2]

1. Department of Medical Quality and Safety Science, Osaka City University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan.

2. Department of Intensive Care Medicine, Osaka Women's and Children's Hospital, Osaka, Japan.

掲載 URL: https://journals.lww.com/pccmjournal/Abstract/9000/Quality_Assessment_of_the_Literature_on_Quality.97858.aspx

＜研究の背景＞

日本のものづくりにおける継続的質改善（KAIZEN）は有名ですが、残念ながら小児の医療分野での質改善の取り組みはあまり報告されていません。小児集中治療室では、重症な患者に対して複雑な医療をタイムリーに行う必要があるため、質改善の必要性および質改善の効果が大きいと考えられます。近年、小児集中治療室での医療の質の改善報告が増えていますが、それを系統的に評価した質の高い研究が今までなされていなかったため、小児集中治療室で行われている医療の質改善研究の全容やそれらの研究報告の質は不明でした。

＜研究の内容＞

本研究グループは今回、小児集中治療室で行われている医療の質改善研究の全容やそれらの研究報告の質を評価するために既存の文献の系統的評価を行いました。小児集中治療室における医療の質改善を報告した論文を系統的に検索し、対象となった 158 の論文の質を採点して評価するとともに、どのような質改善が行われているのかを調べました。表 1 のように、質改善が行われた臨床領域は様々でした。また図 1 のように質改善の論文数は経年的に増加しているものの研究報告の質は必ずしも高くないことも分かりました。

表. 質改善の介入が行われた臨床領域

臨床領域	論文の数 (%) *
医療関連感染	17 (10.8%)
申し送り	15 (9.5%)
回診	13 (8.2%)
鎮静･疼痛･せん妄	13 (8.2%)
投薬安全性	11 (7.0%)
計画外抜管	9 (5.7%)
検査の適正利用	8 (5.1%)
心肺蘇生	7 (4.4%)
呼吸療法･呼吸器離脱･自発呼吸トライアル･抜管	7 (4.4%)
手指衛生	5 (3.2%)
褥瘡	5 (3.2%)
栄養	5 (3.2%)
早期リハビリテーション	4 (2.5%)
家族の支援･関与	4 (2.5%)
採血量・輸血量の削減	3 (1.9%)

* 上位 15 の領域のみ掲載のため合計論文数 (%)は 126 (79.7%)

表 1. 対象となった論文にて質改善の介入が行われた臨床領域

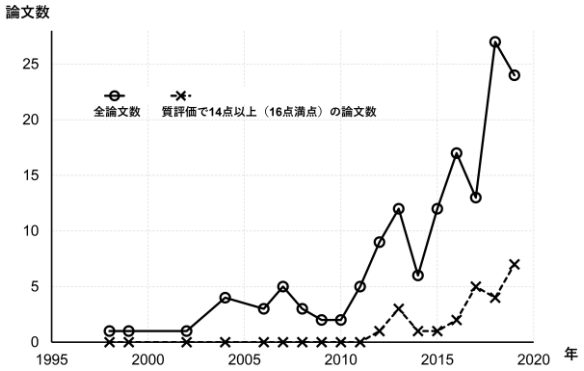

図 1. 年ごとの質改善の論文数と研究報告の質の推移

＜今後の展開＞

この研究は、小児集中治療室で行われている医療の質改善の研究の全容や、それらの研究報告の質の問題を初めて明らかにしました。これをきっかけに、まだ取り組まれていない質改善の課題に注目が集まり、研究報告の質を高める機運となれば、小児集中治療室における医療の質改善の研究や実践がさらに推進すると期待されます。

【研究内容に関する問合せ先】
大阪市立大学大学院医学研究科 医療の質・安全管理学
担当： 山口 悦子
TEL：06-6645-2771
E-mail： melano@med.osaka-cu.ac.jp

【ご取材に関する問合せ先】
大阪市立大学 広報課
担当：上嶋（かみしま） 健太
TEL：06-6605-3411
Email：t-koho@ado.osaka-cu.ac.jp